

健康

＋ アニサキス症予防の3つのポイント ＋

アニサキス症は、「魚介類の生食文化」が根付いている日本で多く発生しています。アニサキス幼虫は、魚介類の主に内臓表面に寄生しており、寄生している魚介類が死亡し、時間が経過すると内臓から筋肉(腹身の部分に多いところ)に移動することが知られています。

アニサキス症は、急性胃アニサキス症(みぞおちの激しい痛み、吐き気、嘔吐)や急性腸アニサキス症(激しい下腹部痛、腹膜炎症状)、じんましんやアナフィラキシーなどのアレルギー症状を起こす場合があります。

アニサキスによる食中毒の予防のポイントは、①鮮度②目視③冷凍・加熱の3つです。

①鮮度を徹底！ 新鮮な魚を選び速やかに内臓を取り除く。(原因魚種はサバが多いようです)

②目視で確認！ 目視で確認して、アニサキス幼虫(白い糸のようなもの)を除去する。

③冷凍・加熱！ アニサキス幼虫を死滅させるには、冷凍(－20℃で24時間以上)、または加熱(60℃で1分以上)が有効です。特に、シメサバ(自家製など冷凍処理されていないもの)によるアニサキス症が多く報告されているので気をつけましょう。

[グループホーム支援センター心音 看護師 小玉 三正]

咀嚼・嚥下機能を守ることの大切さ ～向陽園での取り組みについて～

私たちは毎日、無意識のうちに食べ物を噛み、飲み込んでいますが、これには「咀嚼(そしゃく)」と「嚥下(えんげ)」という大切な機能が関わっています。咀嚼は歯や顎を使って食べ物を細かくし、嚥下はそれを喉から食道へと安全に送り込む動作です。これらの機能が低下すると、食事中にむせやすくなったり、食べこぼしが増えたり、誤嚥(食べ物が気道に入ってしまうこと)による肺炎のリスクが高まることもあります。向陽園では、利用者がお食事を安全に楽しんでいただけるよう、看護師と栄養士が一人ひとりの食事状況を確認する「咀嚼・嚥下評価」を実施し、食事形態の調整や食事の際の注意点を全職員で共有しています。また、食べやすさを考慮した加工や、とろみの工夫なども行いながら、安心して食事ができる環境づくりに努めています。



食べる力は、健康と生活の質を保つための大切な力です。適度に噛む食事や、口や喉の体操を取り入れることで、その機能を維持することが可能です。

これからも、利用者と家族に安心していただけるよう、日々の変化に気を配りながら、いつまでも食べる楽しみを感じていただける環境づくりに努めてまいります。

[障害者支援施設向陽園 管理栄養士 渡邊 恵理]

食



きざしとまなざし4県交流展 [福島・新潟・宮城・山形]

日時 : 2025年10月30日(木)～12月6日(土) 10:00～17:00
会場 : やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

2018年から継続し今回で8回目となる、福島県、新潟県、宮城県と山形県の障害のある方の芸術作品交流展です。各県の障害者芸術文化活動支援センター協力により、「表現のきざしをみつけるまなざし」をテーマに集まった、8作家の招待作品を展示します。

● 出展作家:
福島県 / 館 篤・赤羽 好三郎 宮城県 / 長江 珠愛 NPF_juno・阿部 未夏
新潟県 / NULL・西島 健司 山形県 / 小林 遼平・長濱 哲哉

主催 : やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
協力 : はじまりの美術館 新潟県アールブリュット・サポート・センターNASC SOUP(障害者芸術活動支援センター@宮城)のぞみ福祉作業所 わらしべ舎羽黒台工房

日々是好日 愛泉会で働いて..

愛泉会には様々な職種があり多くの職員が働いています。今回は「令和7年度新規卒者」にスポットをあてました。



障害者支援施設
向陽園
支援員
高橋 いずみ

大学生の頃、愛泉会の生活介護施設、グループホーム、放課後等デイサービス、相談支援事業所、地域活動支援センターで実習をさせていただきました。今は入所施設の生活支援員として日々利用者とコミュニケーションを取りながら仕事をしています。コミュニケーションといっても言葉で伝える人、写真で伝える人、特定の声掛けが必要な人、こちらの声掛けにどの程度理解しているのかつかめない人、様々です。個々に合わせた支援、でも基本的には職員間で統一した支援をおこなっています。自分なりのコミュニケーションの取り方を考えつつ、職員同士で支援について広い視点で振り返ることが大切だと思います。



児童デイサービス
月のひかり
支援員
齋丸 葵衣

愛泉会に入ってから、たくさんの学びがありました。研修で、人権の尊重、受容と共感、自立支援について他の人と話し合うことができ、利用者の方が、地域で、安心して自分らしく生活してゆくにはどのように支援すればよいかを考えられるよい機会となりました。

また、愛泉会の、成人を対象とした他事業所を見学することで、自分が今支援しているお子さんが将来どのような生活をしていくのか具体的に学ぶことができました。今所属している月のひかりでは、職員の皆さんにたくさん教えていただいたり、お子さんとの交流から色々学んでおり、毎日が勉強です。支援者としてもっと成長できるように、これからも積極的に学び続けてゆきたいです。



創造企画課
支援員
坪谷 美月

主に研修運営・広報・採用の業務に従事して半年ほどが経ちました。役割としてはソーシャルワークにおけるコーディネーション(調整)機能に近く、間接的な支援員という立場ではありますが日々奮闘しております。当事者意識を持つこと・コミュニケーションの重要性、何事も問題なく円滑に運営することの難しさ、過不足なく準備することの大変さというものを痛感しており、頭を悩ます場面も多いですが、「関係する皆様のニーズに最大限応える」ということを第一に試行錯誤しております。

分からないことも沢山あり、手探り状態ですが、皆様のおかげで無事業務を遂行できております。感謝の気持ちを忘れずに、これからも役割を全うしていきたいです。